

世界旅行 in 西ノ島 2017

皆さん、こんにちは。教育委員会教育課の国際交流員のクレオです。2月25日（土）に町民体育館にて国際交流事業の「世界旅行 in 西ノ島 2017」を行いました。今回の世界旅行は計6名の国際交流員が参加し、とっても豪華なキャストでした。イベント当日の内容を紹介したいと思います。

1. 韓国コーナー

島根県庁からの国際交流員朴慧貞（パク・ヘジョン）さんは民族服装のチマチョゴリを着用し、参加者と一緒に韓国の折り紙ゲーム「タッチ」と「グーチョキパー」と言う韓国のじゃんけん遊びをしました。

2. ポーランドコーナー

島根県隠岐支庁在籍、日本唯一のポーランド籍の国際交流員のヤゴダ・ヴォヴォシェンさんはマンモスのズシちゃんを連れて、参加者と一緒にポーランドの切り絵遊びをしたり、ポーランド料理と観光地を楽しく紹介したりしました。

3. 米国コーナー

地域振興課の国際交流員チェルシーさんはオハイオ州名物のトチノミのネックレスを付けながら、情熱的に出身地のオハイオ州を紹介しました。

4. アイルランドコーナー

松江市からのアイルランド籍国際交流員（日本で3人しかいない！）のルーアン・トレーシーさんはアイルランドの伝統スポーツ「ハーリング」を披露しました。またアイルランドで幸運を意味するゴールドコイン（チョコ）を配りました。

5. フィンランドコーナー

出雲市からの国際交流員タンヤ・セベリカンガスさんはフィンランドの伝統踊り「イェンッカ」をはじめ、フィンランドの色々な事を紹介しました。タンヤさんはフィンランドにしか売っていないハガキを記念品として、話しかけてきた参加者に渡しました。

6. イギリスコーナー

教育課の私はイギリス全国いろんな地域の特有の文化を紹介しました。お土産として、話しかけてくれた参加者に赤いジャケットを身につけた女王の近衛兵（チョコ）を渡しました。

このように、国際交流員たちは約60名の参加者と楽しく会話したり、ゲームやダンスを体験したりして、笑顔と交流すくめのイベントでした。今後もこのような国際交流イベントを行いたいと思っておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。



6カ国の国際交流員

左から：クレオ、パクさん、タンヤさん、ヤゴダさん、ルーアンさん、チェルシーさん



国際交流員チェルシーによる『チェルシージャーナル』

大人になると少し不思議に思う「タマゴとウサギの4月」

皆さんこんにちは！ 4月と言えば、どのようなイメージが浮かんできますか。入学式や新年度のことでしょうか。アメリカでは新学期が9月から始まるため、私は入学のイメージがほとんどなく、代わりにたまごやウサギ、チューリップのイメージが浮かびます。それぞれが『春のシンボル』としてグリーティングカードのイラストやギフトの包装等にも描かれていますが、厳密に言うと、頭の中に浮かぶのは薄い黄・緑・紫のタマゴで、ウサギは白くてなぜか首に薄い黄色の蝶ネクタイをつけています。これはおそらく、アメリカで幼い頃から見たイースターの影響でしょう。



イースターとは？ 言葉自体は神話にある豊饒の女神イーストラ様の名前から来ていると言われていますが、現代では春の祭日であり、3月末か4月上旬に行います。このヨーロッパ発祥の祭日がアメリカ経由で来日されたようなので、日本ではアメリカ独特の楽しみ方も、日本独特の楽しみ方も見かけます。ある人は「春祭り」、ある人は「復活祭」として過ごす一日です。

私の家族ですが、子どもの頃は「たまごを運んでくれるウサギ」がイースターの主人公でした。毎年、3月末頃になると、ゆで卵をお酢と着色料で薄い赤や紫、黄色等に染めることで「イースターエッグ」を作っていました。その翌朝、「イースターバニー」と呼ばれているこのウサギが来た証拠として、染められた卵が家の至る所に隠されていました。（なぜウサギが鶏の卵を持っているのか？大人になると少し疑問に思いますが、イースターバニーさんはそういう者です。）

その後、「エッグ・ハント」と呼ばれる卵探しに挑戦し、翌日は余ったゆで卵をたまごサンドにしたり、ゆで卵を半分に切り、中の黄身をマヨネーズとマスタードで混ぜてから卵白に戻して食べる料理で余りを消費しました。節分の余った巻きずしを切って翌日のお弁当にするような感覚かもしれません。

このタマゴ中心の習慣は実は自分の家族だけでなく、地域全体の人も盛り上がりました。（今もそうです。）ゆで卵でなくプラスチック製のタマゴを使った卵探しイベントも町で行ったり、小学生の頃に手すりの長いイースター専用のカゴ「イースター・バスケット」を片手に公園や野原を走ったりする思い出があります。プラスチック製のタマゴは容器ともなっているため、わくわくしながら蓋をあけてチョコレートやジェリービーンズを発見するのがイースターのいい思い出でした。一方、ほかの小学生も走り回っていたので、収集寸前のタマゴが児童に踏まれて壊れてしまった事故や、貰った大量のチョコレートをその場で食べ尽くそうとして具合が悪くなったエピソードもありました。ただ、町のイースターイベントは終わりになるといつも、イースターバニーの着ぐるみさんとの記念撮影があったため、いつも快適な気持ちで無事終了できました。

タマゴとウサギの思い出話、いかがでしたか。広くて自然豊かな西ノ島ではエッグ・ハントはいつか流行するかもしれません。その時は、イースターバニーの白兎でなく、オキノウサギに期待ですね！

